

『平和のとりでを築く』

大牟田 稔

始め 話題の中心となる「原爆ドーム」の
説明をしている。

原爆ドーム

- ・ 広島市のほぼ中心を流れる川のほとりに建っている。
- ・ もともとは物産陳列館として、千九十五年に完成した。
- ・ ヨーロッパ出身の若い建築家が設計した鉄骨・れんが作りの三階建て。
- ・ 建物の真ん中には、楕円形の丸屋根（ドーム）が五階の高さにつき出ている。
- ・ 建てられた当時は、小さいながら、ひときわ目立つ建物だった。
- ・ 小学生たちの絵や書の作品展の会場としても、多くの市民に親しまれていた。

筆者の思い

原爆ドーム

私は、建築されてからこの日まで、この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。

『平和のとりでを築く』

大牟田 稔

中① 原爆ドームに起こった出来事について説明している。

原爆ドームに起こった出来事

一九四五年（昭和二十年）八月六日午前

八時十五分、よく晴れた夏空が広がる朝、

広島市に原子爆弾が投下された。

爆心地に近かったこの建物は、たちまち

炎上し、中にいた人々は全員なくなっ

たという。

ほぼ真上からの爆風を受けたため、全焼

はしたものの、れんがと鉄骨の一部は残

った。

丸屋根の部分は、支柱の

鉄骨がドームの形とな

り、この傷だらけの建物

の最大の特徴を、後の時

代にとどめることとなっ

た。



原子爆弾で破壊される前の建物

『平和のとりでを築く』

大牟田 稔

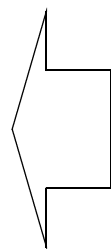
中②

原爆ドームの保存へと進んでいく流れを説明している。

・原爆ドームを保存するか、それとも取りこわしてしまうか、戦後まもないころの広島では議論が続いた。

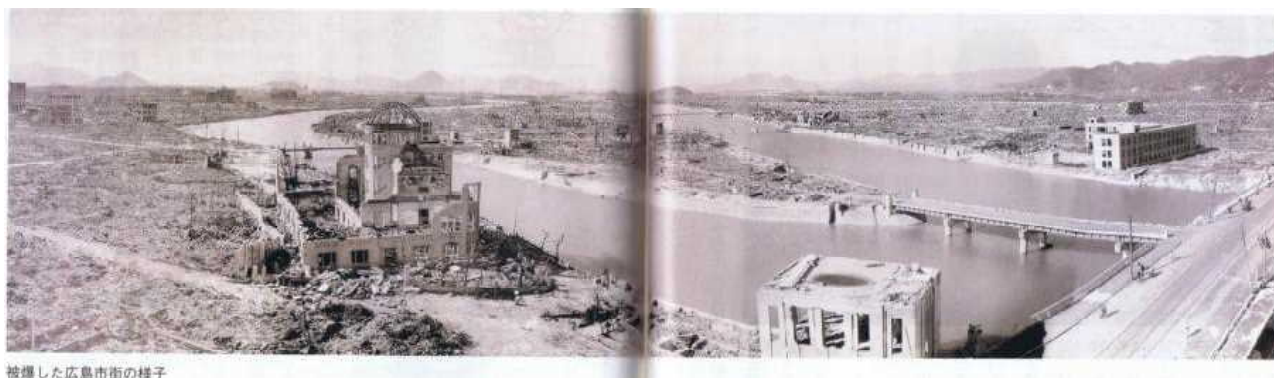
保存反対論

原爆ドームを見ていると、原爆がもたらしたむごたらしいありさまを思い出す。



「原爆ドーム永久保存」へ

急性白血病でなくなった一少女の日記がきっかけ。この日記の後おしされて、市民も役所に「原爆ドーム永久保存」に立ち上がる。



被爆した広島市街の様子

『平和のとりでを築く』

大牟田 稔

中③ 原爆ドームが世界遺産へと指定される流れを説明している。

世界遺産の歴史に大きな役割を果たした文化遺産と、地球上にある貴重な自然遺産を、未来へ向けて大切に守っていくために、ユネスコと世界の国々が調査し、指定していく制度。

（例：エジプトのピラミッド、ギリシャのオリンピア遺跡、日本の姫路城や屋久島）

筆者の思い
ちよつぱり不安を覚えた。

理由
はたして世界の国々によって認められるだろうかと思つたから。

理由
・戦争の被害を強調する遺跡であるから。
・規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡であるから。

『平和のとりでを築く』

大牟田 稔

終わり
原爆ドームに対する筆者の思いを述べている。

筆者の思い
痛ましい姿の原爆ドームは、核兵器は
むしろ不必要だと、世界の人人々に警告する
記念碑なのである。
原爆ドームは、それを見る人の心に平和
のとりでを築くための世界の遺産なのだ。